

トピックス

アブラナ科作物の黒腐病に気を付けて

アブラナ科作物の黒腐病は *Xanthomonas* 属菌によって引き起こされる細菌性病害である。5～6月、9～10月に発生することが多いが、近年、11月にも発生が確認されるようになってきている。発病すると薬剤による防除は効果が低いため、予防的防除に努めることが重要である。

内 容

アブラナ科作物の黒腐病は *X. campestris* pv. *campestris* によって引き起こされる細菌性病害で、葉縁からV字型や円～不定形の黄化病斑症状を示す(写真)。本病の病原細菌は土中に生存し、灌水や降雨によって跳ね上がった水滴とともに葉の水孔や付傷部から侵入することが、主な感染経路である。また、種子表面に付着あるいは内部に侵入していた病原細菌が、発芽時～幼苗期に感染することがあり、罹病苗を定植すると圃場内での感染拡大を引き起こす。高温・多湿条件により発生する病害で、県内での多発時期は5～6月、9～10月である。

しかし、近年、露地野菜や花壇苗で11月にも本病の発生が目立つようになった。県南部では2024年以降、10月からキャベツ・ハクサイ・ブロッコリー等で発生し、11月以降も発病が散見された。また、ハボタンでは、1999年に発生が報告されて以降、目立った発生はなかったが、2025年10月初旬に診断依頼があり、本病の発生を確認した。その後も感染拡大し、11月も外葉の病斑が目立った。産地近隣のアメダスデータでは、10月1日～15日の日平均気温が22.7℃(平年値+3.5℃)と高く、高温により発病が助長されたと考えられる。なお、本病は、*Xanthomonas* 属菌の植物病原体検出キット(イムノクロマトキット)による簡易診断が可能である。

防除対策としては、発病後の薬剤による防除は効果が期待できないことから、予防的防除が重要である。また、苗床では発病苗の処分と灌水方法を改善し、本圃においても罹病残渣はできるだけ圃場外に持ち出し、処分することで感染拡大が抑制できる。



ハボタン苗のV字型病斑

(原図：加西農業改良普及センター)

キャベツ葉縁の不定形病斑

ハクサイの円形病斑

写真 アブラナ科作物における黒腐病の病徴

いずれも下葉から発病し、上位葉に進展する。病斑部は古くなると壊死乾燥して破れる。

今後の方針

本病の発生期間が以前より長くなっていることから、感染時期に合わせて防除体系を再検討し、発生が懸念される産地へ対策を指導する。